



令和5年(2023年)第23週 2023年6月5日(月)~2023年6月11日(日)
熊本市 感染症発生動向調査 速報



RSウイルス、感染性胃腸炎、新型コロナウイルス感染症などが増加しています。特にRSウイルス感染症は全国的に増加しています。

●RSウイルス感染症について

RSウイルスによる呼吸器の感染症で、年齢を問わず、生涯に何度も感染と発病を繰り返します。発症の中心は0~1歳児で、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の子どもが少なくとも1回は感染すると言われています。



◆どんな病気？

・**症状**……発熱などの軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。多くは軽症ですみませんが、低出生体重児、心疾患、肺疾患、免疫不全のある場合は重症化のリスクが高いと言われています。また、初めての感染では症状が重くなりやすいと言われており、特に乳児の早い時期(生後数週間~数ヶ月間)に初めてRSウイルスに感染した場合には、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。

・**潜伏期間**……2~8日程度(典型的には4~6日)です。

・**感染経路**……感染者の咳やくしゃみのしぶきを吸い込む飛沫感染、ウイルスが付着した手や物(手すり、おもちゃ等)を触ったりなめたりすることによる接触感染があります。2歳以上で再感染・再々感染した場合に、症状としては軽い咳や鼻汁程度しかみられず、保育所に平常時と変わらず通っている場合があります。また、保護者や職員が感染することもあります。このような場合、これらの人が感染源となって、周囲に感染が拡大することもあります。

・**流行期**……主に秋から冬にかけて流行します。しかし、最近では夏季にも小流行があり、注意が必要です。感染した場合、特効薬はありませんので、治療は基本的には対症療法になります。

◆予防法や対策は？

手洗い、アルコール製剤などで手指を衛生的に保つ事です。特に子どもを預かる施設では、子どもたちが日常的に触れるおもちゃや手すりなどは、アルコールなどでこまめに消毒するようにしましょう。

また、流行状況を常に把握しておくことが重要で、流行期には、0歳児と1歳以上のクラスは互いに接触しないよう離しておき、互いの交流を制限することで、重症化しやすい乳児への感染を予防することができます。特に、呼吸器症状がある年長児が乳児に接触することを避けましょう。罹患した場合の登園のめやすは、「呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと」です。参考文献:保育所における感染症対策ガイドライン(2021(令和3)年8月一部改訂)

厚生労働省ホームページ「保育関係(保育所における感染症対策ガイドライン)」QRコード



定点 種別	期 間		2023年 22週		2023年 23週	
			5/29~6/4		6/5~6/11(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り	
C O V I D - 1 9	インフルエンザ		104	4.16	112	4.48
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		86	3.44	151	6.04
小 児 科	RSウイルス感染症		2	0.13	24	1.50
	咽頭結膜熱(プール熱)		11	0.73	8	0.50
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		26	1.73	15	0.94
	感染性胃腸炎		119	7.93	170	10.63
	水痘(みずぼうそう)		0	0.00	3	0.19
	手足口病		1	0.07	0	0.00
	伝染性紅斑(りんご病)		0	0.00	0	0.00
	突発性発しん		8	0.53	8	0.50
	ヘルパンギーナ		28	1.87	38	2.38
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		1	0.07	0	0.00
眼 科	急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)		4	0.80	1	0.25
基 幹	細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
	無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎		0	0.00	0	0.00
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00